令和８年９月１日

令和８年度　附属中学校評価報告書（第１回）

愛媛大学教育学部附属中学校
校長　向　平和

令和８年度の附属中学校の重点目標について、７月に実施した生徒・保護者・教職員対象のアンケート調査に基づき、自己評価を行いました。

ついては、その結果を本書面にて御報告します。今後も「自立と共生の力を持つ生徒の育成」を目指し、本校の良さを継続するとともに社会の変化や時代の流れに合った新たな工夫・改善を進めていきますので、ご理解とご協力をお願いします。

〈表記について〉

評定(%)　４段階（「４：そうだと思う」「３：だいたいそう思う」「２：あまり思わない」「１：まったく思わない」）で評価し、判断できない場合は「０：わからない」と回答した割合

総合判定　肯定率１％を１ポイントとして出した平均（小数第１位四捨五入）

A：肯定率の平均が 90%以上　　**B**：肯定率の平均が 60%以上 90%未満　　**C**：肯定率の平均が 60%未満

※「肯定率」とは、「４：そうだと思う」と「３：だいたいそう思う」と回答した割合の合計です。

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定（%）				
					4	3	2	1	0
自ら学び考える生徒の育成	①課題を自分事として捉え、主体的に課題解決に取り組む中で、学ぶ楽しさを味わい、新たな発想や気付きを得ている。	A (96)	生　徒	**95**	51	44	3	0	1
			保護者	**92**	50	42	5	2	1
			教　員	**100**	38	62	0	0	0
	②自ら目標を設定し、その達成に向けて主体的に学び、振り返る中で、自らの成長を実感している。	A (91)	生　徒	**93**	43	50	7	0	0
			保護者	**89**	41	48	8	2	1
			教　員	**92**	23	69	8	0	0
	③ICT を使った個別最適な学びや協働的な学びを通して、自分の考えを深めたり、多様な視点から物事を捉え直したりしている。	B (88)	生　徒	**92**	44	48	7	0	1
			保護者	**87**	42	45	10	2	1
			教　員	**85**	39	46	15	0	0
考察・対策	・①～③のどの指標について、生徒・保護者・教員のどの立場においてもおおむね肯定率が高く、授業を通して「自ら学び考える」ことを実感できている様子が分かる。 ・特に、③の「多様な視点から物事を捉え直したりしている」という部分について、生徒自身が学びの過程を振り返り、客観的に物事を捉え直す機会を創出していきたい。								

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定（%）				
					4	3	2	1	0
自らの意思で行動する生徒の育成	④集団をよりよくするための話合いをし、合意形成を図る中で、自分たちで考えて行動するとともに、その結果に責任を持つことの大切さを実感している。	B (89)	生　徒	**87**	42	45	12	0	1
			保護者	**87**	35	52	12	1	0
			教　員	**93**	39	54	7	0	0
	⑤実生活に即した課題解決的な学習に取り組む中で、様々な教科の学びや生活での経験を生かしている。	A (92)	生　徒	**93**	44	49	6	0	1
			保護者	**90**	38	52	7	1	2
			教　員	**93**	39	54	7	0	0
	⑥自己選択・自己決定を尊重した学びの中で、自分の可能性を信じて目標を設定し、その実現に向けて粘り強く挑戦している。	B (88)	生　徒	**88**	41	47	9	1	2
			保護者	**84**	40	44	12	3	1
			教　員	**92**	23	69	8	0	0

考察・対策	・④～⑥の項目について、実生活と学習を結び付けたり、課題解決に向けて主体的に学習に取り組めていたりする様子が分かる。「２：あまりそう思わない」が一定数いることが課題。 ・授業だけでなく、学級や生徒会活動、学校行事などの様々な場面で課題解決の機会を創出したり、生徒の自己選択・自己決定に基づいた経験を積み重ねたりできるように支援したい。

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定（%）				
					4	3	2	1	0
感性・表現力を高める生徒の育成	⑦多様な視点を出し合って対話することを通して、気付きや考えを自分自身でじっくり見つめ直すとともに、積極的に他者に伝えている。	B (87)	生　徒	87	37	50	10	2	1
			保護者	75	28	47	19	4	2
			教　員	100	39	61	0	0	0
	⑧支持的風土のある集団の中で、互いの良さを認め合いながら、自分も他者も安心して学んだり、活動したりすることができる関係を築いている。	A (95)	生　徒	93	54	39	6	0	1
			保護者	92	55	37	6	1	1
			教　員	100	54	46	0	0	0
	⑨周囲の様々な人々と協働し、目標の実現に向けてやり抜く活動を通して、集団としての連帯意識を高めている。	A (94)	生　徒	90	52	38	9	1	0
			保護者	93	60	33	6	1	0
			教　員	100	31	69	0	0	0
考察・対策	・⑧・⑨の指標について、生徒・保護者・教員とも高い数値になっており、集団への所属感やその集団の中で生活する上での心理的安全性が確保されている様子が分かる。 ・⑦の指標について、学校生活の様々な場面で生徒たちが豊かな感性や自己表現力を高めていけるよう、対話を通して合意形成を図る活動の充実を目指したい。								

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定（%）				
					4	3	2	1	0
学校ウェルビーイングを実現する教師と生徒の協働改革	⑩生徒は学校を楽しんでいる。	A (92)	生　徒	90	59	31	8	0	2
			保護者						
			教　員						
	⑪生徒は自分や集団の成長を実感している。	B (89)	生　徒	89	55	34	10	1	0
			保護者						
			教　員						
	⑫教師は授業や生徒との関わりの中で、働きがいを感じている。	A (92)	生　徒						
			保護者						
			教　員	92	54	38	8	0	0
	⑬教師と生徒は意見を出し合って学校をよりよくする活動に取り組んでいる。	A (91)	生　徒	88	49	39	10	1	1
			保護者						
			教　員	93	31	62	7	0	0
考察・対策	・⑩・⑪の指標について、生徒が自分自身や集団としての成長を実感できていることが学校生活の楽しさにつながっていると考えられる。今後は一人一人へのきめ細かな支援が必要。 ・⑫・⑬の指標について、教師と生徒がよりよい授業づくりや諸活動の充実に向けて、さらに温かい関係づくりを基盤とした学校運営に努めていきたい。								

項目	評価指標	総合判定	対象	肯定率	評定（%）				
					4	3	2	1	0
愛媛とともに輝く学校	⑭家庭や地域等との連携を図るため、教育活動の状況を発信したり、要望に応えたりしている。	B (84)	生　徒						
			保護者	**90**	45	45	7	2	1
			教　員	**77**	31	46	23	0	0
	⑮教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域や大学等の外部の資源を含めて効果的に活用している。	B (79)	生　徒						
			保護者	**88**	44	44	7	2	3
			教　員	**70**	31	39	23	7	0
	⑯業務改善に努め、教育の質を落とさず、働き方・部活動改革を進めている。	C (54)	生　徒						
			保護者						
			教　員	**54**	23	31	31	15	0
	⑰教師としての資質・能力を育むために、それぞれの教育実習に応じた適切な指導をしている。	B (70)	生　徒						
			保護者						
			教　員	**70**	39	31	15	15	0
	⑱大学や他校園、公立学校等と連携し、教育に係る実践研究を行い、成果を地域に広めようとしている。	C (46)	生　徒						
			保護者						
			教　員	**46**	15	31	39	15	0
考察・対策	・⑭の指標について、保護者の数値に比べて教員の数値が低い傾向がある。情報発信の方法や内容に関して、教員同士での情報交換や協力体制を密にして、さらに充実させていきたい。 ・⑮・⑱の指標について、生徒のよりよい生き方を考える場となったり学びを深めたりするような外部（地域や大学など）との連携・協力の機会を創出していきたい。 ・⑯・⑰の指標について、授業・人間関係・部活動など、様々な場面での生徒との関わりの中で、働きやすさだけでなく、多くのやりがいを実感することができるような教師としての資質・能力の向上に努めていきたい。								

【保護者の皆様からの主なご意見に対する回答】

附中祭の運営について、保護者の皆様からご意見をいただきました。仲間と協力しながら生き生きと活動する生徒の姿を喜んでいただいたご意見を数多くいただきました。一方で、熱中症への対策についてご心配の声も寄せられました。附中祭の実施に当たっては、開催時間、休憩時間の確保、水分補給、活動内容、待機環境等を総合的に見直し、生徒の安全を最優先にした運営に一層努めてまいります。また、附中祭では、文化的行事の一環として、青葉写生会で制作した作品を展示し、生徒一人一人の努力の成果を披露する機会としています。作品一点一点に込められた生徒の思いや努力をご理解いただき、体育的行事である運動会と併せて、温かいお気持ちでご鑑賞いただけますと幸いです。

また、インターネットや SNS、スマートフォン、生成 AI との適切な向き合い方を学ぶ機会を継続してほしいとのご意見もいただきました。本校では、朝礼前の朝活動の時間等に、デジタルシティズンシップ教育を定期的に実施しています。今後も継続して取り組むとともに、特別活動等の時間や、タブレット端末・学習アプリケーションを使用する場面において、生徒自身が情報機器や生成 AI 等とのよりよい関わり方について考える機会を設けてまいります。

その他、生徒の自主性を大切にした指導方針や、自ら課題を見つけて考える探究的な学習活動、附中祭において教職員が生徒一人一人に寄り添う丁寧な指導など、本校の教育活動に対する励ましのお言葉をいただきました。また、学級通信や BLEND による情報発信の分かりやすさ、大学と連携した取組、生徒の意見を生かした柔軟な学校運営など、安心して楽しく成長できる教育環境を評価するご意見もいただきました。一方で、生徒の意思やプライバシーへの配慮、教員間における指導方針の共有、学力や生活習慣への支援の更なる充実を望む貴重なご意見もいただいております。いただいた励ましのお言葉に感謝しつつ、現状に満足することなく、ご指摘いただいた課題を今後の学校改善に生かし、より安全で信頼される学校づくりを進めてまいります。